

1 ICOMOSによる現地調査日程決まる！

ユネスコ世界遺産センターに推薦書が提出されている「紀伊山地の霊場と参詣道」の現地調査の調査者、調査期間が決まりました。本年10月11日(土)から19日(日)の間、韓国ICOMOS執行委員会委員でソウル国立大学教授のKeewon HWANG(キーウォンホアン)氏により実施されます。和歌山・奈良・三重すべての県で調査が行われる予定ですので、紀北地域の関連地域におきましてもコアゾーン周辺の景観保全等ご協力をお願いします。

世界遺産登録にかかるこれまでの経緯及び今後の予定

平成13年 4月 暫定リスト登載

平成15年 1月 ユネスコ世界遺産会議に推薦書提出

平成15年10月11日～19日 ICOMOSによる実地調査(現地調査)

平成16年 6月頃 世界遺産会議で登録可否について決定

2 世界遺産登録推進イベント開幕！

東紀州地域活性化事業推進協議会、東紀州地域の8市町村、三重県紀北県民局・紀南県民局では、来年度予定されている熊野古道の世界遺産登録に向けての気運を高め、熊野古道を活かしたまちづくりや魅力ある集客交流圏づくりを実現するために「熊野古道世界遺産登録推進イベント」を本年の9月から11月までの3箇月にわたり実施します。

期間中は28の熊野古道関連イベントが予定されていますが、10月、11月に実施される紀北管内のイベント予定は次のとおりです。(詳細は主催団体に確認してください。)



- (1) 10月12日 熊野古道トライ【主催：海山町】
荷坂峠ウォーク **募集終了**
- (2) 10月19日 熊野古道旅物語【主催：紀伊長島町】
ツヅラト峠ウォークと特産品でのおもてなし
- (3) 10月19日 みえ熊野学フォーラム【主催：東紀州地域活性化事業推進協議会】
民俗学者で日本地名研究所長の谷川健一氏による基調講演など
- (4) 10月～11月 みんなで歩こう尾鷲の古道【主催：尾鷲市】
 - 11/1 馬越峠とイタダキ市 11/16 三木・羽越峠
 - 11/22 曾根次郎坂・太郎坂 11/23 八鬼山越え
- (5) 10月25・26日 FSCの森林サミット【主催：紀北県民局】
基調講演・シンポジウム FSCの森林ウォーキング
FSCの森林とふれあう集い
- (6) 11月8日 舞たろや！がいなもんじゃ東紀州【主催：もてなしのさとづくり会議】
よさこい踊りを中心に地域芸能や物産展
- (7) 11月16日 古道の魅力体験ツアー【主催：紀北県民局・紀南県民局】
古道(東紀州)名物品の物産展、始神峠ウォーク、おもしろ体験など
- (8) 11月16日 熊野古道仮装ウォーク【主催：東紀州地域活性化事業推進協議会】
巡礼姿で伊勢神宮内宮から外宮までのウォーク **募集終了**
- (9) 11月22日 熊野古道世界遺産登録推進シンポジウム【主催：紀伊長島町 他】
東海旅客鉄道株式会社代表取締役会長の須田寛氏による基調講演など

3 イベント「紀北県民局オープニングセレモニー」開催

9月4日（木）紀伊長島町のツヅラト峠花広場で「紀北県民局オープニングセレモニー」が開催されました。

当日はうだるような暑さの中でしたが、澄みわたる青空の下、約200人の方々に参加され、今井明・紀北県民局長のイベント開幕宣言でイベントが始まりました。

野呂昭彦・三重県知事の「熊野古道の世界遺産登録は、この地域にとって大きなチャンス。この機会を活用し、地域の皆さんが自信を深めるとともに、来訪者増による経済効果にも期待している。」というメッセージに続き、紀伊長島町立赤羽中学校生徒たちによる「古道に綴られた先輩の叡智を学び、今、ここに私たちの新しい文化を紡ぐ」と題した熊野古道調査発表が行われました。

赤羽中学校では4年前から「熊野古道」などの地域の貴重な資産を教材に、郷土の自然や文化を学び、将来に向けその価値を伝えていこうとする取組みを進めています。生徒一人ひとりが課題を設け、その課題解決のため、自らの足で、目で、耳で現地踏査や聞き取り調査、古文書調べなどを行い、「歴史」や「伝統的文化」をはじめ、「環境」や「平和」などをテーマとしたレポートを作成しています。こうした調査研究結果を8頁の資料にまとめ発表されました。



赤羽中学校「熊野古道調査発表」



志子小学校「合唱」

紀伊長島町立志子小学校児童は「ひとりじゃないさ」「笑顔が重なれば」の2曲を合唱しました。元気いっぱい歌う子ども達の姿に、暑さでバテ気味の大人達は癒され、元気づけられました。最後は赤羽中学校生徒も一緒に平成11年の東紀州体験フェスタの時に作曲された「古道の旅人」を合唱しました。

イベント終了後には、ツヅラト峠の整備や清掃活動、休耕田を利用した花畑やホテイアオイ池といったビオトープなどの周辺環境を整備しているツヅラト峠を守る会から、ツヅラト餅やおおさ汁のふるまいが行われました。（志子小学校の児童たちもエプロン姿でお手伝いです。）



自家製ツヅラト餅のふるまい

赤羽中学校や志子小学校では、様々な調査活動や体験活動を通して、郷土の自然や文化の保存・継承に取り組んでいます。また、ツヅラト峠を守る会をはじめとした地域の方々によって、古道客の疲れを癒すおもてなしや環境づくりが行われています。こうした取組みが、熊野古道の世界遺産登録に向けての気運を高めるとともに、文化の保存と創造、地域の貴重な資産の後世への継承に繋がって行くのだと考えます。

連載（第7回）（未発表熊野古道古文書）

（この連載は副会長の野田敦美さんによるものです）

熊野街道筋にて盲目になつた巡礼

もともと眼病にかかっていた者が治したいという願いをもつて、巡礼に出たが途中かえって悪化し、盲目となって送られ帰っていくことになつた一件である。

送り一札

一 能州鳳至郡黒嶋村兵右衛門父導甚と申す者眼病に付き、宗祖大師に順拝の為、当末二月国元ヲ出立致被れ候由二而、其節当村水大師江罷り越し、信仰致し居り候処、次第二眼病相重り、俄かに盲目二相成り、歩行出来難く至極難渋仕り候に付き、何卒御慈悲を以て国元江送り呉候様、当人より願ひ出で候に付き、相調べ候処、相違之無き候間其意に任せ送り出し申し候、村々御慈悲ヲ以て村送りに御取り計らい成し遣わ被れ候様致し度く存じ候、訳而難渋致被れ候へば昼食泊所二而八支度等の儀、是又御取計り成し遣され候様いたし度く存じ候、依而送り一札件の如し

紀州牟婁郡新宮領有馬組

井土村 庄屋

弘化四年

又右衛門 印

未四月

紀州牟婁郡新宮領有馬組井土村より

能州鳳至郡黒嶋村迄

右村々御役人衆中

右相調べ候処、相違之無き候に付き、村送り為し出で候

有馬組大庄屋

浜田傳三郎

弘化四年末二月（一八四七）に能州鳳至（ふげし）郡黒嶋村（現石川県鳳至郡前町黒嶋町 能登半島の先端輪島市の西南に接している）から、眼病を治すため、弘法大師堂を巡拝に巡礼となつてやつてきている。約一ヶ月かかつて紀州奥熊野木本浦まできて、紀州牟婁郡新宮領有馬組井土村（現熊野市井戸町 明治の合併により瀬戸村と合併し井戸村となり、さらに昭和の合併により木本町等と合併した）へ熊野街道を右へ入り山深い「水大師」にやつてきたのである。

江戸時代になり特に盛んになつた巡礼は、重い病いや眼病で煩う者には特に勧められた行だという。導甚は能登から熊野までやつてきたのには、さらに大師の本山である高野山をめざし、そして四国八十八ヶ所巡りまでの遠大な巡礼をもつていたのではないだろうか。

眼病を煩っている導甚は、「水大師」でおつとめもし、旱天つづきでも洩れることのない霊水もいたただきながら、何日か信仰の日々をすごしたのであろう。

霊水の御利益の噂をきいてやつてきたのであろうか。熊野市の設立した「水大師」での説明板によると、土地の人が天保十年（一八三九）に僧のお告げにより「水大師」に一週間こもり、水を服用したところ、たちどころにして病気が治つたという。その後近在の人たちがたたくさんお参りにきて、三千人余にもなり、特に眼病によく効くとあつてお参りにきて、竹筒に水を入れて持ち帰つたという。そんなことがあつた八年後に通り合せてた導甚は村の人々から噂をきかぬ筈がない。導甚はこれぞ大師のひき合わせと「水大師」にやつてきて、こもり信仰をなし、水を服用したのであろう。しかし眼病が次第に悪くなり、急に目が見えなくなつたという。



それで井土村の庄屋に「村送り」を願い出て、調べでも盲目に相違ないということ、「送り一札」を出したわけである。

盲目になって、慣れない初めての送られ旅の難渋さを察して、昼食泊所での支度までお願いしている「一札」である。これ又二ヶ月余かかって、松本峠を初めとして熊野街道の幾多の峠を越えてきて尾鷲大庄屋に届けて、能登まで送られ帰っていったのであろう。

(付)

「水大師」についての信仰の広さ、深さを物語るものが「熊野市歴史民俗資料館」に曼陀羅図「地獄極楽」がある。「水大師」の比久丘が勧進したときに使ったものだという。又戦時中、尾鷲から、息子、父親の戦地での「のどのかわき」の癒しを祈りに巡航船にのってお参りしたという。現在でも毎月二十一日例祭が行われ、それに合わせて参詣する人々がいる。



4 熊野古道ルールを募集しています

三重県地域振興部東紀州活性化・地域振興プロジェクトグループでは、熊野古道を大切な資源として保全・活用していくため、利用者ルールを皆さんから募集しています。(応募締切11月28日)応募いただいたルールは三重、和歌山、奈良の三県でとりまとめ、来年度に公表されます。応募用紙は三重県東紀州の8市町村または各県民局に備えています(三重県ホームページからもダウンロードできます「<http://www.pref.mie.jp/CHISHIN/HP/topic/20030901.htm>」)ので、ふるってご応募ください。

編集後記

紀伊長島町三浦の“始神峠”登り口のある宮川第二発電所グランド横で県が進めている「駐車場」、「トイレ」、「あずまや」の整備がまもなく完成します。完成後は国道からの乗り入れも楽になり、古道散策の利便性アップが期待されます。11月16日には、ここをメイン会場に『古道の魅力体験ツアー』が開催されます。この機会にぜひ“始神峠”へお越し下さい。



発行元 世界遺産登録推進紀北地域協議会事務局
〒519-3695

尾鷲市坂場西町1-1 三重県紀北県民局企画調整部内

電話 0597-23-3409

FAX 0597-23-2130

URL <http://www.pref.mie.jp/OKIKAKU/HP>